



陽子の道政だより

53

2012年 新緑号

発行 平出陽子後援会

発行責任者 上田 小八重

連絡先/函館市中島町2-8
北教組函館支部内
(☎33-5080)



第1回定例道議会予算特別委員会で道教委に教育問題について質問

2012年度
北海道予算

三兆二七六七億円計上

—しかし、五年連続減少—

北海道議会議員 平出陽子



民主党政権になり地方交付税が回復したものの、各地方自治体は税収入が大幅減のため借金で運営しているようなものです。二〇一二年末の道債(道の借金)残高見込みは五兆八四〇〇億円にもなります。経済の活性化・雇用確保が至上命題なのですが、今定例道議会で大きな議論になったのは「HAC」「震災がれき」問題でした。

「HAC問題」は一年前に破たんしたHACの筆頭株主になった道の責任を問うものです。役員を派遣していながら年末までHACの経営危機を認識していなく、更に支援名目の「離島交通確保・地域医療整備」の検証もされていざなことが明らかになりました。道に償還する貸付金四〇〇万円の猶予は議会で承認しましたが、今後道道の責任問題は問われます。

「震災がれき問題」は心情的には全国で処理を引き受けたいと思いはあっても、放射能汚染拡大の不安が付きまといまいます。知事は議会最終になって放射能含有基準を国基準の半数以下にしましたが、受け入れ自治体住民への説明が重要です。

泊原発三号機の再稼働については反対・慎重な議論を求める請願が、約五〇以上の市民団体から寄せられました。国が新基準を作成しましたが、泊原発再稼働については道民の皆様の慎重な声に添う行動を約束します。福島原発事故を教訓にし、脱原発をめざします。

＝道教委よ！＝
教職員や
生徒たちの
実態をわかって
下さい！

＝今定例会で教育課題について質問されたそうですね。

△平出▽期数が重なるとなかなか質問する機会が少なくなってくるのですが、今回は予算特別委員会で質問しました。

一つ目は教職員の研修についてです。研修内容より研修旅費について質問しました。

学校現場や都市教育委員会や都市教育長からも研修旅費の増額要望は毎年提出されています。

また、国の会計検査院から研修内容・時間などについて厳しい指摘や給与返還要求があった



ので現場はビリビリしています。法で定められている研修制度ですので、現場が研修したい内容その旅費の予算化が求められます。チェックが厳しいから研修認可を渋るのは論外です。新年度に向け早急に研修対象内容を整理させました。

二つ目は高校での特別な支援を必要とする生徒に対する調査についてです。

全道の雪害被害額 約十九億円にのぼる

＝平出さんも雪害状況調査をしてきたそうですね。

△平出▽担当部や農家の皆さんから状況は伺っていました。実際に現地調査すると大災害を実感しました。①の写真はハウスの高さまで雪が積っていたこ



① 雪害状況調査 (月形町)

特別支援教育が導入されている小・中学校とは違い、高校はまだまだですので、特別な支援が必要と思われる生徒数を把握するため全道の高校で調査しました。

＝どこが問題だったのですか。

△平出▽本来なら事前に本人或いは保護者に調査する旨の了解をとってから実施すべきものです。人権侵害に値します。

とが、②の写真ではハウスのパイプがつぶれてしまったことがよくわかります。

営農の士気が下がらないよう災害資金の利子助成のPR、パイプの撤去などの人員確保について所属している農政委員会で質問しました。農家の方達は営農意欲・販路維持を心配していました。



② 雪害状況調査 (岩見沢市)

平出道議



テープカットで開通を祝う関係者 (北斗茂辺地IC本線上で) 函館新聞より



北海道北方博物館交流協会講演会・祝賀会 (札幌市)

今年も恒例の行事を開催します

＝詳細は後日＝

8月11日(土) 陽子杯パークゴルフ大会

―陣川パークゴルフ場―

8月19日(日) 陽子のビアパーティー

―人見町会館又は広場―

行事が続きますが是非御参加お願いします

あしがき

今年の大雪で春の訪れが遅れましたが、やっと春の気配がとつたようで、函館の桜満開を待ち遠しく過す今日の頃です。
昨年の統一地方選挙から早一年。平出陽子後援会として、皆様へ支えて頂いていることに感謝申し上げます。この間、平出陽子は道議会を通じて、経済、生活環境、教育、子育てや福祉の問題など、多くの方からの声に耳を傾け、道政に反映できるように尽力してきました。
誰もが「安心して暮らせる社会」の実現は平出陽子の信条です。「安心」社会の実現には、市民の側に立ち現状を直視すること、将来のビジョンを明確にした政策が必要です。エネルギー政策では、フクシマの問題を他人事とせず自らのこととして捉え、そして「大岡」を目前にする私たち函館市民が、将来の函館市民の暮らしを想像することによって、転換を求めなければなりません。「貧困」や「格差社会」の問題についても、他人事とせず共有し想像することが、新たな政策・制度を実現する一歩となります。
その声に寄り添い、道政に反映するのが平出陽子の役目です。今後も、多くの声を頂戴させていただきます。けるようようしくお願いいたします。